

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|---------|------------------|
| 事業所番号 | 4099400022 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 サンヒルズふくち会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ほのぼの | | |
| 所在地 | 〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城3081番地1 | | TEL 0947-48-3187 |
| 自己評価作成日 | 平成23年5月2日 | 評価結果確定日 | 平成23年06月06日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 | | TEL 093-582-0294 |
| 訪問調査日 | 平成 23年05月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした自然の中で、四季折々の草花を眺め、様々な行事や園芸等を楽しんだり、利用者と職員が、家族の一員として、暮らしの中で、支え合う環境を目指し、家族から、信頼してもらえるように職員が、チームワークを発揮し「ここで暮らせて良かった」と思われるように頑張っているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのぼの」は、福祉事業に精通した施設長が、熱い思いを込めて、利用者と家族が「ここに住んで良かった」と思われるように、職員と一体となって、作り上げたグループホームである。隅々まで、手入れの行き届いた環境は、利用者一人ひとりが自由に、のびのびと暮らすことが出来、質の高い職員による優しい介護で、来訪者の心まで和やかにさせている。広い敷地に広がる四季折々の庭園風景は、利用者や、来訪者の気持ちを優しく包み、季節を五感で感じ、利用者の生き生きとした暮らしに繋げている。また、ホーム独自のリハビリと、栄養バランスの取れたご馳走、24時間の医療連携体制等で、利用者の健康管理は万全で、管理者を中心にチームワークの取れた職員が、一丸となり地域密着型グループホームとして、今後の活動が期待される「ほのぼの」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ‘普通の生活を送ることが出来るよう、家庭的な環境の中で、穏やかで安らぎのある生活づくりの実現、自由でゆったりとした中で個別の暮らしを大切にもらう’という事業所の理念の下で、日々の援助に努めている。 | 利用者一人ひとりの尊厳を大切に、自由で穏やかに暮らすことが出来るよう支援していくことを理念に掲げ、施設長、管理者、職員は理念を理解、共有し、実践に繋げている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地元の方が、ホームへの訪問(小学校、中学校の職場体験、幼稚園の慰問、コーラス、俳句会等)を通じて交流に努めている。 | 職員の子供や孫が地域の祭りに参加し、祭りの山を担いでホームに立ち寄ったり、小、中学校の職場体験や、利用者の楽しみにしている幼稚園児の慰問など、地域との交流は活発である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 限られた職員と、重度化した利用者の増加により、時間的余裕が取れない。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を開催し、家族、地域、行政の参加により、幅広く情報を収集したり、サービスの実績報告を行ったりして、そこで得られた意見等を今後のサービスに活かしている。 | 年6回、定期的に会議を開催し、ホームからは報告、委員からは意見、質問が出され、活発に討議し、出された意見はホームの運営に活かしている。また、会議時に、利用者の誕生会の様子を見てもらったり、試食会を行う等、会議がマンネリ化しないための工夫もみられる。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役場の一部屋を借りて、町内だけでなく、広範囲のグループホームでの連絡協議会を開催することで、それぞれのホームの存在や、役割を認識してもらっている。 | 運営推進会議に行政職員の参加があり、連絡協議会で意見交換したり、行政窓口に出向き、報告や相談を行うなど、連携を図っている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の排除の理念、方針を掲げ、定期的に勉強会を開催している。どのようなケースが身体拘束にあたるかを学び、身体拘束を絶対しないという意思を持って、ケアを実践している。 | 身体拘束廃止マニュアルをもとに、管理者と職員は、身体拘束をしないケアに取り組み、利用者が穏やかに暮らせる体制を作っている。また、玄関の鍵は施錠せず、自由に出入りが出来る。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待といっても幅が広いので、定期的に勉強会を開催することで、どのようなケースが虐待に当たるのかを確認し、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度の内容を提示し、また、定期的に勉強会を開催することにより、知識を得て、実践に役立つよう支援している。 | 現在、成年後見制度の該当者はいないが、利用者や家族の必要に応じて、いつでも制度の活用方法を説明し、申請窓口を紹介できる体制である。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約内容や内容変更の時には、わかりやすい丁寧な説明をしたり、文書を送付したりしている。内容がわからなければ、尋ねてもらおうようにしている。また、必要時、問い合わせ時には、その都度説明をしている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 本人、家族の要望を積極的に受け入れ、サービスへ反映させている。苦情、相談受付担当者を設置している。また、家族の方の来園時や連絡等で要望があった場合、全員で共有し、利用者の方々へのサービスにつなげている。 | 職員は、家族の来訪時に親しく懇談し、ホームの庭で開催するバーベキューに、参加してもらえるよう家族に声かけする等、家族とコミュニケーションをとり、要望や意向が把握できるよう努めている。ホーム便りを復活し、家族に利用者の暮らしぶり等を報告し、好評を得ている。 | 家族の心情を察して、家族の抱える悩みや心配事を家族同士で話し合える場を設け、気軽に要望などを聴きだせるよう、家族会の設立を期待したい。 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各種会議、ミーティング、勉強会において、意見や提案を聞いている。また、毎日の業務の中でお互いコミュニケーションを取り合い、少しでも仕事のしやすい環境を作ることに努めている。 | 職員は、会議に参加するだけでなく、積極的な意見や要望を出すことで、各人がより良いホームを目指す意識を持ち、責任を持って日々の仕事に取り組んでいる。また、施設長を中心に、長い付き合いの職員が多く「あうん」の呼吸でチームワークを発揮し、日常的に意見のやり取りが行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が目的を持って、やりがいを感じて働ける環境作りと、労働条件の改善及び賃金の改善に努める。その為に、法人の健全経営に努める。また、スタッフに於いては各種研修に参加し、自己研鑽に努める。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の個性を尊重し、互助の精神と受容の精神でお互いを認め合い尊重し、職場に於いて個々の能力を十分発揮できるような環境作りを努めている。 | 管理者の、穏やかで落ち着いた仕事ぶりは、職員にとって目標であり、相談相手で、一人ひとりの職員が力を発揮するための原動力でもある。管理者は、さらに、職場環境の改善に向けた取り組みを始めている。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 職員会議、研修や勉強会等を通して取り組んでいる。 | 管理者は、職員と理念を唱和し、人権に対する教育を徹底し、利用者の尊厳を守ることを常に頭の中に入れて日々のケアに取り組んでいる。また、6月には、外部から講師を招き、人権研修を開催する予定である。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 様々な研修、勉強会、職場内での実践研修等積極的に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福智町、田川市郡内の連絡協議会に加入し、研修会や交流会への参加により、交流する機会を持っている。また、他事業所の空床状況の情報を交換し、利用者が地域の中で、どのホームに入居しても安心して高品質のサービスを受けることが出来るように努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 体験見学、訪問の他、事前にホームの運営方針を十分に説明している。また、希望、相談等いつでも受け付ける旨を伝えている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前見学及び相談者や家族との十分なコミュニケーションを図り、良好な信頼関係を築くことが出来るように努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者や家族のニーズの把握が出来るよう努めている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者として、また人生の先輩ということを念頭に置いた上で、同じ人間で、同じ環境で生活をしているという思いをもちながらサービスを実施している。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の日常生活の状況や、受診内容等を報告したり、家族の要望、相談を聞いたりすることで、よりよい関係を作り、お互いが利用者の方のことをしっかり考え、支えていくよう心掛けている。 | | |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域の行事参加、行きなれた、また住んでいた地域や自宅周辺をドライブ、散歩することで、昔を思い出してもらったり、近所の方達や馴染みの方達と話しをする時間を作ったりして、利用者の方達の今までの人生を大切にすることを心掛けている。 | 職員は、利用者の要望を常に聴きながら、記録し、家族等と相談し、馴染みの場所へ出かけている。また、昔からの理・美容院の利用、併設のデイサービスの知人、友人との交流など、馴染みの関係の継続に努めている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の方達の個性、それぞれの人間関係を十分把握し、過ごしやすく、楽しい生活が出来るよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ホームを退所しても、いつでも連絡、相談を受け付けている旨を伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者本位、そして家族の意向を十分配慮して、サービスにつなげていくことが出来るよう心掛けている。また、スタッフの意見を聞きながら全員で協力し支えあって、利用者の方達へのサービスを実施している。 | 職員の異動がほとんどなく、利用者との関係は家族以上のものがあり、利用者の思いや意向を瞬時に察知し、出来るだけ本人の意向に沿えるよう努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者の方、家族の方達から話を聞き、その方がどのように生活をされてきたのかを把握した上でサービスを実施している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その人その人の生活のリズムや体調、気分等を確認しながらサービスを実施している。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | おおむね三ヶ月に一度のプランの見直し、その間にモニタリングを実施し、プランに沿ったサービスが実施されているかを確認している。また、本人、家族の意見や要望を聞き取り、スタッフに相談しながら、プランを作成している。 | 職員は、利用者一人ひとりの個性と健康状態に配慮し、家族と相談しながら、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化や急変時には、家族と連絡を取りながら、その都度介護計画の見直しをしている。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その日の状態や出来事を記入し、全員が確認するようにしている。また、日々の記録も十分に参考にしながらプランを作成している。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の方はもちろん、近隣の方達からの相談、要望を聞く柔軟性を持っている。隣接しているデイサービスや有料老人ホームの利用者の方達と触れ合うことで、事業所の孤立化を防いでいる。家族の方達との外出や、スタッフ対応での外出の機会を体調や気分、気候等を考慮しながら実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 警察、消防、役所としっかりと連携をとっている。また、地域行事や自然の状況を確認し、積極的に参加、外出援助を実施している。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人のかかりつけ、また家族の要望等に答えられるよう援助している。様々な医療機関と連携、連絡、相談を実施している。 | 利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医受診を支援している。また、夜間等、利用者の急変時など、24時間救急対応できる病院と提携している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携加算により、デイサービスの看護師に支援を依頼し、より安心、安全、健康的で充実した日常生活を送ることが出来るよう援助している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、本人の状況確認や相談を実施し、現状把握に努めている。退院がいつでも良いように、受け入れ態勢を整備している。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 以前数名の方に対し、ターミナルケアを実施。医療、家族、スタッフが協力し、最期の時をその人らしく過ごすことができるよう支援を実施した。今後は、更に勉強会等を重ね、いつでもターミナルケアを実施できる環境を整えること、また、心構えをもつよう話しをしている。 | ターミナルケアの指針を作成し、利用者、家族、医師、関係者等と常に話し合い、利用者、家族の希望を確認しながら、利用者の重度化に向けた方針を共有し、終末期における支援体制を確立している。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変事、事故発生時のマニュアルを参考に勉強会を実施している。また、医療連携加算による看護師との連携により、スタッフ各自のレベルアップが更に期待できる。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年二回の火災訓練の実施、また、実際にあった水害を教訓に非常時に対する心構え、避難誘導や欄柵体制を確立している。警察、消防だけでなく、地元の青年団に協力をお願いできる体制も整えている。 | 年2回、消防署の指導で、昼夜を想定し、人員を配置し、非常口、避難場所などを確認しながら、非難訓練を実施している。また、災害に備えた非常食、飲料水などの備蓄も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者各自の個性、性格を重視し、丁寧、やさしい口調を心掛け、サービスを提供している。また、プライバシー保護の目的の元、利用者の方のプライバシーにも十分配慮している。 | 職員は、穏やかな口調で利用者とは話し、人生の先輩として敬い、日常的に一人ひとりの行動を優しく見守りながら介護を実践している。また、個人情報、鍵のかかる場所に保管している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | スタッフが決めるのではなく、利用者本人が、意思表示や決定が出来るよう援助、または言葉での誘導を実施している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペース、体調や気分等に十分配慮しながらのサービスを実施している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望、好みの服装、身だしなみが出来よう援助している。また、季節感に対しても配慮している。理美容に関しても、移動理美容や、行きつけの美容室への送迎を実施している。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個人の能力を把握した上で、その人その人のペースに合わせて実施している。 | 季節の旬の食材をふんだんに利用し、盛り付けにも気を配った美味しい食事を、利用者と職員は、同じテーブルで和気藹々と食べている光景は、家族のようである。利用者はそれぞれのペースで食事を楽しみながら、ほぼ完食されていた。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分補給の確認を実施し、記録に残している。自分で摂取が難しい方は、定期、随時に水分等を補うことが出来るよう援助している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアの声掛けをし、口腔内の確認を実施している。自分で口腔ケアが難しい方は、食後に介助にて清潔を保っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 現在夜間のオムツ使用者は二名いるが、訴えがある場合は、トイレ介助を実施している。日中は、声掛けや時間を見ながらトイレ介助を実施している。 | 排泄チェックシートを作成し、利用者一人ひとりのパターンを把握し、タイミングを考えながら誘導や声かけをし、自立に向けた排泄の支援をしている。また、職員は、利用者の羞恥心に配慮し、耳元でそっと促すなど、穏やかなトイレ誘導を行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜(食物繊維)、魚を中心とした食事の提供、十分な水分量の確保、適度な運動等、本人のペースに合わせたサービスを実施している。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 午前、午後問わず、本人の希望時に入浴が出来るよう援助している。入浴に対する意思表示が難しい方に対しては、体調等を考慮しながら、声掛け、入浴準備や介助をしている。 | 入浴は、一人ひとりのパターンがあり、特に決まっていないが毎日入浴される利用者もいる。入浴を拒まれる利用者に対しては、タイミングをずらしての声かけや、利用者同士で声をかけ合うなどの支援をしている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動後に横になったり、ベッド等の介助を行ったりと、その人その人のペースに合わせての休憩時間を確保している。また、夜間帯に関しても同様で、個人のペースでの就寝時間を確保している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬状況が一目でわかるようにファイルを作成している。また、服薬の確認、及び服薬後の状態を確認するように心掛けている。看護師との連携も大事にしている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人と集団、そのバランスを十分考慮しながら、個別、集団での活動、外出や気分転換が出来るよう援助している。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望があるときは、確実に外出支援を実施している。また、希望や訴えない方に対しても、気分転換や外の空気を吸う、日の光にあたる、自然を感じる、地域や季節ごとの行事への参加等、外へ出る機会を積極的に作っている。 | 比較的介護度の軽い利用者が多く、意向を聴きながら、職員の勤務体制に合わせ、散歩、買物、ドライブ等、外出の支援をしている。また、季節の花が咲き乱れるホームの敷地内の散策も、心癒されるひとときである。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、自分で金銭管理をしている方は二名である。その他の方は金銭管理が困難なため、事務所及び家族が金銭管理をしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 希望時には電話等の援助をしている。また、利用者の方、家族の方の間に入って話をすることもある。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 花や飾り等、季節を感じる事が出来るような工夫をしている。静かで穏やかに過ごすことが出来るような環境づくりを心掛けている。 | 広々とした敷地内の庭園の一角に、家庭的な雰囲気のあるホームがあり、玄関入口には、利用者が丹精込めて作っている花々が咲き乱れ訪問者を迎えてくれる。リビングにはゆったりしたソファが置かれ、季節の花飾られ、利用者が落ち着いてゆったり暮らせる空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間であるリビングでは、利用者それぞれがテレビを見たり、会話を楽しんだり、時にはそこで休んでいたりと、思い思いに過ごしている。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分が使用していたものを中心に、本人や家族、スタッフが相談しながら、本人が落ち着いて、穏やかに生活出来るよう、環境づくりに配慮している。 | 居室の窓から見える風景は自然がいっぱいで、居ながらにして季節を感じる事が出来る。また、利用者の馴染みの物を持ち込んだ落ち着いた雰囲気の居室は、利用者の日々の暮らしを支える空間である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、トイレ、風呂場、玄関先のスロープ等には、手すりを設置している。照明の明るさに関しても配慮している。また、自室、トイレ、風呂場等がわかるよう、ネームプレート等を準備している。 | | |